

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 9 月えんだより

9 月聖句：「人はパンだけで生きるものではない。」

<ルカによる福音書第 4 章 4 節>

涼しい秋の季節が恋しくなるほど暑かった、今年の夏が暦の上では過ぎようとしています。これほどの暑い夏を経験したことは記憶になく、台風等の自然災害も含め、気候の変化を肌で感じる夏ではなかったでしょうか。今、これからの子ども達へ、自然の豊かさを残していきたいと改めて何度も感じました。

今月の聖句「人はパンのみに生きるにあらず」という言葉です。どこかで耳にした方もおられるかと思います。物質的な豊かさよりも、精神的な豊かさを持つべきであると理解をされる方、「衣食足りて、礼節を知る」という言葉の反対の意味と解釈される方もいます。しかし、この言葉が語られたのは、イエス・キリストが 40 日間の断食を終えて飢えている中で、「神ならば目の前の石をパンに変えてみる」と試された後に、この言葉を発せられたことに注目して見るのです。

イエス・キリストは、色々な人々と飲食を共にする方でした。罪人、徴税人、敵対する人とも食事をしました。実際に飢えている人、疲れている人、身寄りのない人や孤児、あるいは病人、心身を弱らせている人を休ませ、食べさせる実践があったとの研究もあります。現在でいう病院や食堂と宿舍とが一つになったような施設のような機能を、当時の教会や教会の人々が自宅を開放して実践したとも言われています。

「パンがあればいい」「食べていけるだけで十分」そのような言葉自体、間違ったことではありません。イエス・キリストにつながっている人々は、飢える人を助け、疲れている人を癒そうとするのは、神様がそれを望んでおられるからだと信じているからです。助けてくれる場所がある有難さは、私は見捨てられていないと実感することができます。確かにパン(食べ物)が無ければ生きてゆけませんが、人はパンだけで生きているわけではない。「パンを分け合いなさい」という神様の命令に従うことで、一緒に生きることができるといことなのです。日々の生活に満足し、豊かさがまるで自分の功績でもあるかのように奢り高ぶり、神を忘れてしまうことに警告されています。感謝を忘れ、神を見失い、私利私欲に駆られて生きるようでは、荒野で飢えに苦しみ暮らした方が、余程人として大切な生き方ではないか？という警告であります。

分かちあって、喜び合う共同体を実現することが今、求められているのかも知れません。

年主題 「ともにつむぎだす」～希望の中で～

9 月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	あそぼう	いっしょに
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * 生活の場を広げ、いろいろな遊びを試してみる * 保育者や友だちと共に体を動かす喜びを感じる 	<ul style="list-style-type: none"> * 平和を考え、願い、共に祈る * 友だちと共にいることを喜び、体を十分動かして遊ぶことを喜ぶ * 新しい発想や意欲をもって、試してみる
	ちから<幼児讃美歌 II 15>	ちから<幼児讃美歌 II 15>